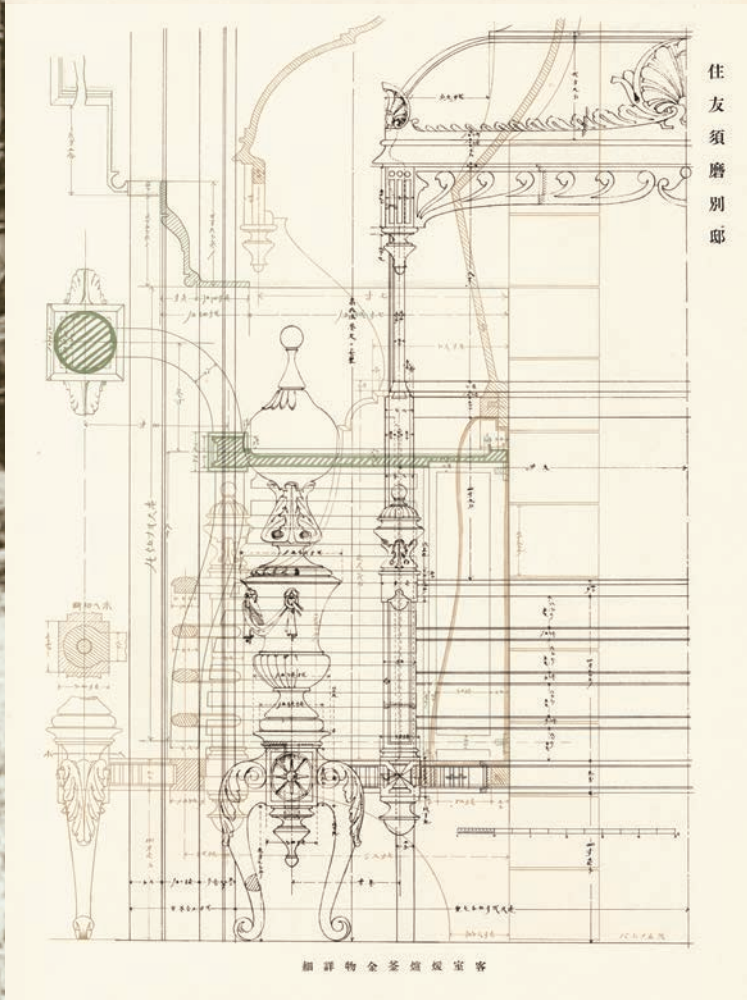
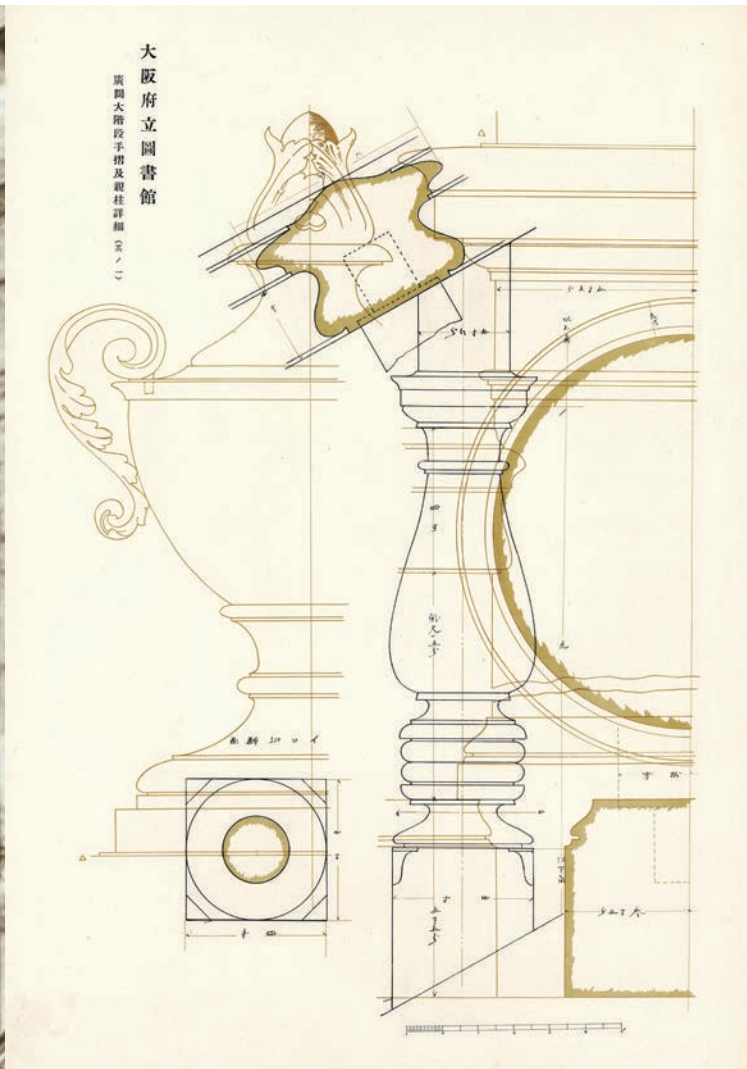




展覧会の趣旨

建築における明治前期は、西洋文明を直接的に摂取した辰野金吾などの第1世代の時代であったが、その世代は文明の移入そのものが使命だった。それに続く野口孫市など第2世代の建築家たちは、明治後期という文化的成熟を迎えた時代の中で、それぞれに独自の輝きを放っていた。

その中で野口孫市は、「ものとしての建築」の移入ではなく、「空間の経験や意味としての建築」を豊かにデザインしようとしていた。これは、イタリア・ルネサンス期の考え方にも通じ、また後の時代のモダニズムへの胎動であったとも考えられる。

今回の展覧会では、ほぼ同時に設計と建設が進められていた中之島図書館と須磨別邸に焦点を当て、「野口孫市は何を考えながら設計しようとしていたのか?」という彼の建築術に迫ることを試みた。



住友家須磨別邸復元模型(泉屋博古館所蔵)



中之島図書館



野口孫市 (1869～1915)

明治2年 (1869) 姫路に生まれ神戸で育ち、大阪の第三高等学校 (明治22年に京都に移転。後の第三高等学校) に学ぶ。

明治24年 (1891) 帝国大学工科大学造家学科に入学。明治の建築界の元勳・辰野金吾の下で学び、大学院では耐震構造を研究。

明治29年 (1896) 大学院を卒業し、通信省に入る。

明治32年 (1899) 住友に招聘され、1年におよび欧米を視察する。

明治33年 (1900) 住友本店臨時建築部 (現・日建設計) が発足し、その初代・建築技師長に就任。大阪図書館 (現・中之島図書館)、住友家須磨別邸、住友総本店仮建物、住友銀行各支店、明治生命大阪支店、大阪倶楽部 (建替え前)、大阪心斎橋など数々の名作を残す。

大正4年 (1915) 工學博士の学位を授けられる。同年、10月26日死去。享年47歳。大学院卒業後19年の短くも輝かしい建築家人生を駆け抜けた。



中之島図書館と 野口孫市

MAGOICHI NOGUCHI

— 明治の大阪に、ある秀でた建築家がいた —

展示会 / 2016年 10月26日 (水) — 11月30日 (水)

大阪府立中之島図書館 3階記念室・多目的スペース2 (展示/入場無料)

開館時間 / (月)～(金)9:00～20:00、(土)9:00～17:00 図書館休館日/日・祝日 ※11/6(日)展示会場は開館

講演会 / 「野口孫市の建築術」 講師/株式会社日建設計 顧問 林 和久

日時 / 11月19日 (土) 15時30分より

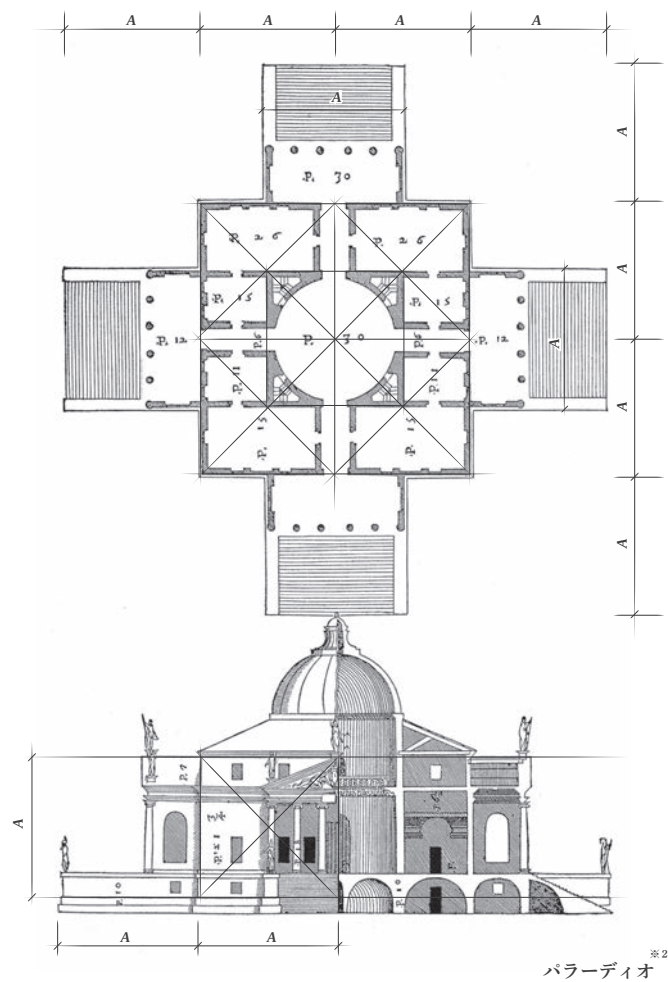
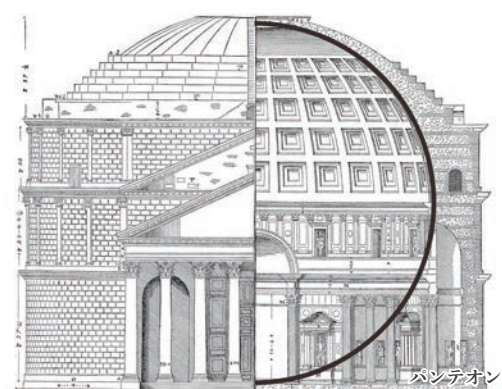
場所 / 大阪府立中之島図書館 多目的スペース3 (別館2階)

お申し込み先 / 指定管理者 株式会社アスウェル TEL / 06-6203-0474 (先着順) 参加費:500円

共 催 / 大阪府立中之島図書館、株式会社日建設計、指定管理者 株式会社アスウェル 協力 / 住友史料館、公益財団法人 泉屋博古館
お問い合わせ先 / 指定管理会社 株式会社アスウェル URL <http://www.asuwell.co.jp> TEL / 06-6203-0474

の 建 築 術

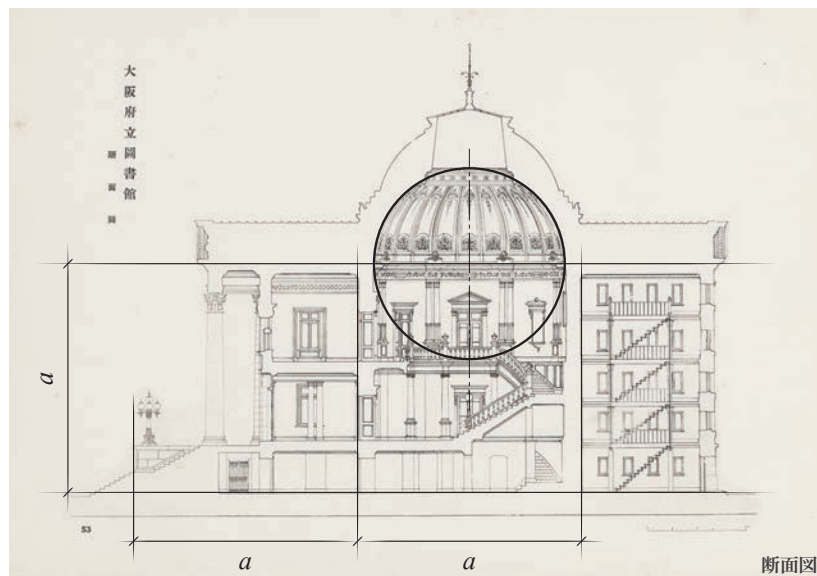
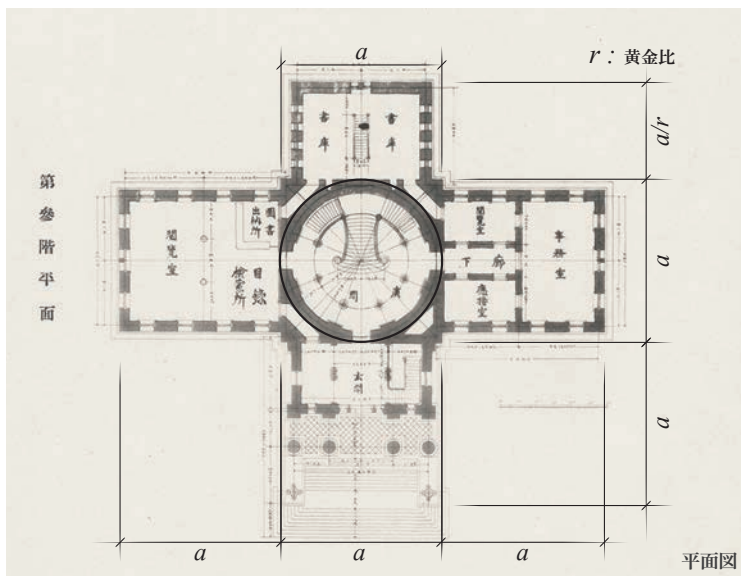
中之島図書館



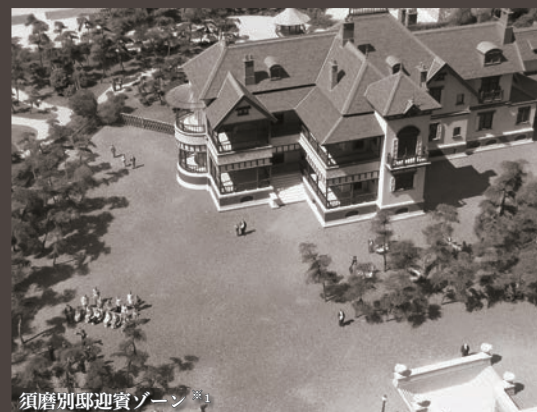
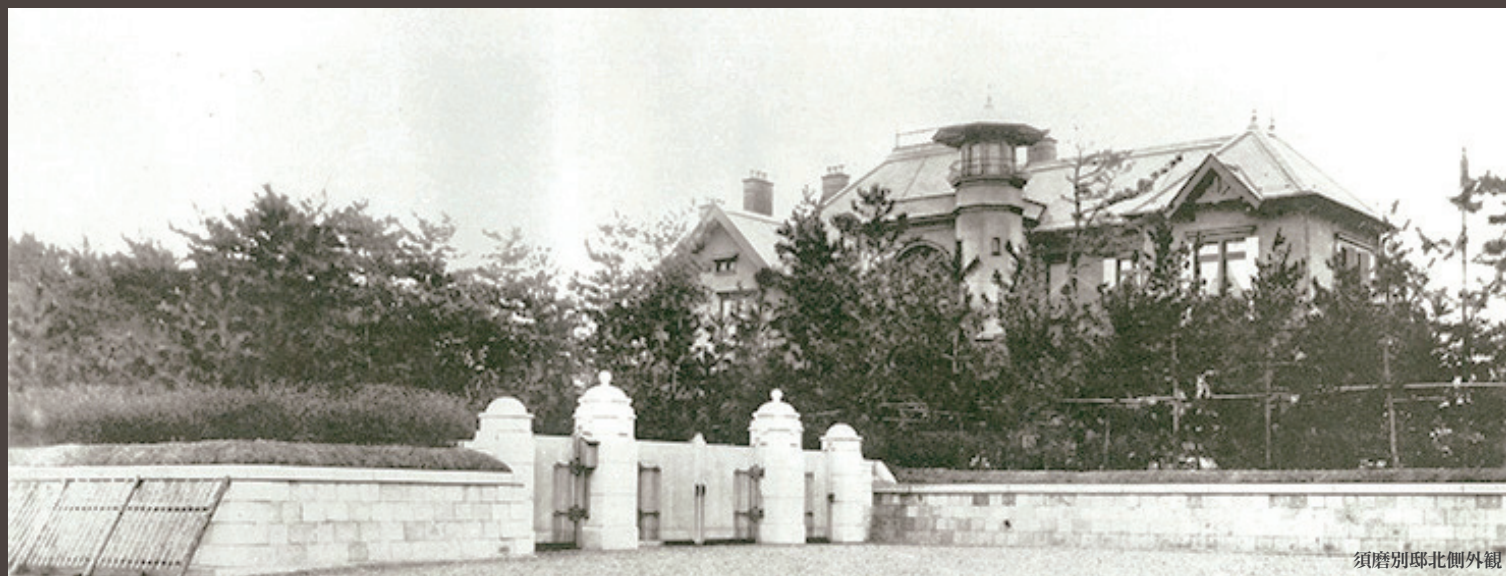
— 幾何学の力 —

19世紀後半までの欧米では、「知の殿堂」を象徴する建築様式として、イタリア後期ルネサンスのパラディオ設計によるヴィラ・ロトンダを「理想の原形」としていた。パラディオ自身が、「理想の原形」としていたのが古代ローマ時代のパンテオン。

中之島図書館の設計において、野口孫市はパラディオの幾何学を参照するとともに、古代ローマのパンテオンにあったような「内接する球形」の幾何学による空間を導入していた。中之島図書館には、立方体に浮かぶ象徴的な球形の空間が秘められている。



MAGOICHI NOGUCHI



須磨別邸

— ピクチャレスクな「自由様式」の建築 —

住友春翠は、明治30年(1897)7ヵ月にわたる欧米巡遊の旅から帰国した後「明治の新時代には、英国流の国際的社交の場・子女教育の場が必要」という強い思いを抱いていた。そこで野口孫市に設計を命じ、古来より白砂青松の景勝で知られた須磨の浜に、明治36年(1903)に竣工させたのが住友家須磨別邸。

住友家須磨別邸は、関西における公的迎賓館の役割も果たしており、大正7年(1918)には英国王室コンノート殿下来臨の歓迎晩さん会が催されている。

野口孫市は、明治の建築家第1世代のような「様式の選択」に捉われず、新しい感覚で「あるべきように」邸宅建築を設計した。あえて名付けるならば「自由様式」と呼べるかもしれない。恩師・辰野金吾は、この愛弟子・野口孫市のピクチャレスクで自由な作風を「野口式」と称し讃えた。

*1 住友家須磨別邸復元模型(泉屋博物館所蔵) *2 下地図/ヴィラ・ロトンダおよびパンテオン下図 桐敷真次郎編著『パラディオ「建築四書」注解』より *3 出典/レオナルド・ベネ・ヴァーロ著「図説 都市の世界史3」 *4 Edwin Lutyens(1869-1944)設計による Deanery Garden(1901)出典『Architectural Monograph 6 Edwin Lutyens』

